

1 調査の概要

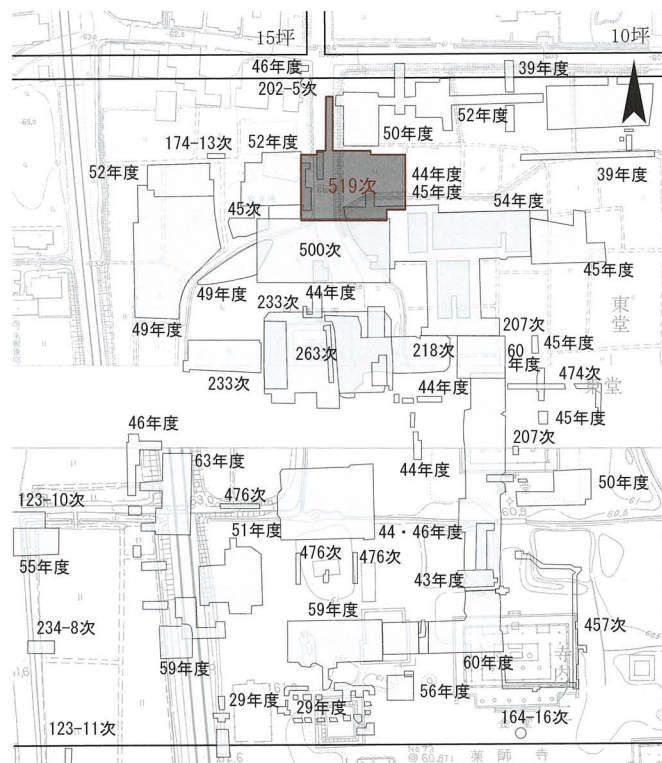
法相宗大本山薬師寺では、2011年から始まった薬師寺旧境内保存整備計画にもとづいて、境内の整備事業をすすめている。今回の調査はその一環として、十字廊の基壇や建物の正確な規模や位置、基壇外装の様相など、全容を解明すべく、過去に奈良文化財研究所（2000年以前は奈良国立文化財研究所、以下奈文研）が発掘調査をおこなった十字廊西部の既調査区に一部重ねて、十字廊の中央部以東を主たる発掘調査対象とした。あわせて、十字廊と僧房の一部である東小子房の関係を明らかにするため、東西約39m、南北約21mの調査区を設定した。さらに、調査の過程で十字廊基壇の北端が設定した調査区よりも北方に想定されたため、十字廊の北端を明らかにする目的で、南北17m、東西3mの細長い調査区を北方に拡張した。調査面積は合計約872㎡で、そのうち新規発掘部分は約768㎡となる。

調査に際し、事前に調査対象地に植えられていた樹木の伐採・伐根、石畳や石垣の撤去等をおこなった。なお、今回の調査区の周囲には防災用の消火栓や電気・水道等の配管、あるいは現代の暗渠が埋設されていたため、調査区の縁辺部では遺構面まで掘削できなかった部分がある。

今回の調査により、十字廊の建物および基壇の規模がほぼ確定し、基壇築成の工程や基壇外装の様相、造営や廃絶に関する年代の手がかりなど、多くの知見を得ることができた。また、十字廊の東側にある東小子房などの建物や、十字廊の北側に位置する施設に関わる遺構も確認し、十字廊の周辺の空間利用についても新たな知見を得た。このことは、薬師寺内部の施設配置という面だけでなく、全国的にもほとんど明らかにされていない古代寺院における食堂の背後の具体的な様相を明らかにしたという面でも、貴重な成果となった。

第1表 調査経過

9月13日	調査区設定。
9月17日	調査開始。重機掘削。
10月4日	遺構検出開始。
10月18日	SK3132から鬼瓦や施釉陶器が出土。
11月5日	SK3117から多量の土師器皿が重なって出土。
11月6日	南北廊東面南側基壇外装検出。
11月8日	バングラデシュ考古学者らが調査に参加。
11月13日	中学生が職場体験で調査に参加。
11月21日	土器出土状況の写真撮影および三次元計測。
11月27日	調査区東北部で南北柱列SA3137を検出。
12月2日	十字廊北側柱列の礎石据付痕跡を検出。
12月6日	写真撮影、木樋に対する年輪年代調査。
12月9日	基壇を壊している土坑SK3112・13を検出。
12月12日	十字廊南側柱列の礎石据付痕跡を検出。
12月24日	羽目石・雨落溝川原石の石材鑑定。
1月7日	南北廊の礎石据付痕跡を検出。
1月14日	東小子房の礎石据付痕跡を検出。
1月15日	クレーンを用いた写真撮影。
1月16日	ハイライダーを用いた写真撮影。
1月17日	平面図作成。
1月21日	礎石据付痕跡の断割調査、拡張区調査開始。
1月22日	部員による現場検討会。 十字廊の北方にのびる石敷SX3110を検出。
1月24日	拡張区北端で礎石建物SB3101を検出。
1月31日	北拡張区写真撮影。
2月13日	記者発表。
2月15日	現地説明会。見学者350名。
2月17日	埋め戻し開始、追加調査。
2月28日	埋め戻し完了。



第1図 発掘調査区位置図（1：3000）